

事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	05-04-01	戦略プラン	●協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	ロケーション関連事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	中野	担当者名	増山
				内線	461		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）							
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）		○建設事業		○それ以外の継続事業		
開始年度	○昭和 ●平成 15年度		根拠				
終期設定	●有 ○無 24年度		法令等				
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分		○計画 ●非計画		
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市				
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成				
	施策	01	観光による地域活性化の推進				
目的	映画、ドラマ、CMなどの撮影を区内に誘致し、映像を通して区のイメージアップを図る。						
対象者等	映画、ドラマ、CMなどの制作会社 視聴者（区民、区外在住者）、来訪者						
内容	ロケに関する相談受付、情報提供、区施設使用に係る連絡調整 ※旧道灌山中学校については耐震基準を満たしていないため、平成24年度末を以って暫定利用を終了した。						
経過	平成13年 3月 道灌山中学校廃校 9月 校舎をACCに無償貸与 平成15年 2月 ACCがロケ場所として提供（映像制作コーディネータに貸付け） 10月 ACCへの無償貸与中止、区が映像制作コーディネータに貸付け 平成17年 4月 公募により、コーディネータの選定 平成18年 6月 貸付け方法の見直し 平成19年 3月 公有財産管理運用委員会において、平成22年度まで延長決定 平成20年 6月 25年3月までの暫定利用期間の延長の方向（3ヵ年） 平成25年 3月 施設閉鎖に伴い平成24年度末を以ってロケ施設事業終了						
必要性	映像を通じた区のイメージアップ及び施設の有効活用を図ることができる。						
実施方法	（1直営） （直営の場合 ○常勤 ●非常勤 ○臨時職員）						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
予算額	1,597	1,383	1,345	—	—	—	—	
①決算額（28年度は見込み）	777	781	537	—	—	—	—	
②人件費等	1,570	1,241	1,226	416	386	0	—	
③減価償却費	—	—	1,129	169	163	0	—	
【事務分担当量】（%）	35	35	35	5	5	0	—	
合計（①+②+③）	2,347	2,022	2,892	585	549	0	0	
特定財源								
国								
都								
その他	3,276	3,276	3,276					
一般財源	-929	-1,254	-384	585	549	0	0	
実績の推移								
事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
旧道灌山中学校利用件数	62	66	77	0	0	—	—	
その他区施設でのロケ件数	44	10	13	12	12	—	—	
ロケに関する相談等受付件数	91	114	136	11	5	—	—	

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 旧道灌山中学校利用件数	0	0				暫定利用（平成25年3月終了）
	② その他の区施設でのロケ件数	12	12				公園の利用状況
	③						

（問題点・課題分析）	旧道灌山中学校のロケーション施設としての活用が終了後、区内におけるロケ件数が大幅に減少した。引き続き、今後のロケーション事業の在り方について、検討していく必要がある。
他区の実況	（実施 3 区 未実施 19 区 不明 0 区） 台東区フィルムコミッション（平成17年度～）、すみだフィルムコミッション（平成23年度～）、葛飾区観光フィルムコミッション（平成24年度～） 学校施設の提供は、台東区、豊島区が実施

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	—	—	—
②			
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
休止・完了	休止・完了	旧道灌山中学校のロケーション施設としての活用が24年度末を以って終了した。 今後は、観光情報提供事業の中で、ロケーション対応していく。

議会議決要旨	H14二定 FCの検討について H14三定 「ロケの街」として売り込むための取り組みについて H21一定 「フィルムコミッション」への取り組みについて
--------	---

事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	05-04-02	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	観光情報提供事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	中野	担当者名	三宮・増山・斉・中嶋
				内線	461		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-01-01	観光情報提供事業					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）			○建設事業		○それ以外の継続事業	
開始年度	○昭和 ●平成	14年度	根拠				
終期設定	○有 ●無	年度	法令等				
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	●計画		○非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市				
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成				
	施策	01	観光による地域活性化の推進				
目的	荒川区の観光情報を区内外に広く提供することによって、区のイメージアップを図るとともに区への来訪者を増やし、地域経済の活性化を図る。						
対象者等	区外の人々及び区への来訪者						
内容	①観光ガイド（イベントカレンダー）作成（14年度～）、H22、23英語版 ②HPに区内行事のインターネット動画配信（14年度～） ③HPに都電荒川線花見どころサイトの開設（14年度～26年度） ④まちあるきマップ作成（17年度 日暮里・南千住、18年度 都電荒川線沿線、19年度 日暮里・南千住改訂、20年度 都電荒川線沿線に舍人ライナーを含め改訂、21年度 日暮里・南千住改訂、日暮里・谷中マップ作成、22年度 都電舎人ライナー沿線、24年度 南千住改訂、27年度 日暮里改訂・千住散策マップ改訂・日暮里・谷中増刷改訂）、⑤観光PR協力所設置91か所（H28.6.1現在）、⑥都電荒川線散策マップ（19年度）、⑦行政観光パンフレット作成（20年度作成、23年度改訂）、⑧観光スポット特集冊子の作成（20年度）、⑨京成日暮里駅構内PRコーナー運営（24年度～ 掲示板2か所、ラック1台）、⑩イメージポスター作成（24年度）、⑪ツイッター開始（24年度）、⑫日暮里駅前イベント広場電光掲示板情報更新（25年度～）⑬南千住駅構内PRコーナー運営（26年度～机1台、パーテーション1台）						
経過	○平成22年度から観光ボランティアガイド事業を受入体制整備事業へ移管した。 ○区内行事のインターネット動画配信 18年度から9件（都電荒川線のバラ、素盞雄神社天王祭、諏訪神社御神幸祭、胡録神社例大祭、尾久八幡神社例大祭、仲町通り阿波踊り大会、元三島神社神幸祭、熊野前サンバカーニバル）を常時配信していたが、21年度に主要5イベントに一本化（ダイジェスト版を作成）した。 ○産業HPで都電荒川線花見どころサイトを運営していたが、27年度の区HPリニューアル時に統合し、花見どころサイトは廃止となった。 ○Twitterは28年4月1日を以て広報課アカウントと統合した。						
必要性	多様な情報発信により区のイメージアップ及び来訪者の増加が期待できる。						
実施方法	（2一部委託） （直営の場合 ○常勤 ○非常勤 ○臨時職員）						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
		予算額	6,984	4,155	2,226	1,237	1,338	3,446
①決算額（28年度は見込み）		3,590	3,475	1,485	862	731	3,348	3,534
②人件費等		11,476	7,622	6,196	6,111	4,158	5,387	
③減価償却費		3,922	2,799	2,420	2,704	1,951	2,389	
【事務分担当量】（%）		135	90	75	80	60	70	
合計（①+②+③）		18,988	13,896	10,101	9,677	6,840	11,124	3,534
特定財源の推移	国							
	都							
	その他		184	341				
	一般財源		18,804	13,555	10,101	9,677	6,840	11,124
実績の推移	観光ガイド（イベントカレンダー）	33,000	33,000	30,000	30,000	30,000	30,000	
	まちあるきマップ（区単独）	92,000	118,000	118,000	—	100,000	112,000	
	まちあるきマップ（他区連携）	7,000	150,000	—	67,000	—	60,000	
	観光PR協力所設置件数（延べ）	66	67	74	79	85	91	

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
需用費	観光PRチラシ作成ほか	103	需用費	観光PR協力所関連物品購入ほか	178	需用費	観光PRチラシ作成費ほか	218
委託料	区外向けパンフ作成ほか	628	委託料	まちあるきマップ作成ほか	3,170	委託料	まちあるきマップ作成費ほか	3,316

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 観光PR協力所の設置件数（延べ件数）	79	85	91	95	95	
	②						
	③						

（問題点・課題 指標分析）	①区への来訪者を増やすためには区外への情報発信が不可欠となるが、そのためには、新たなツールを積極的に開拓していく必要がある。
	②オリンピック・パラリンピック開催に伴い、今後増加が予想される外国人観光客に向けた情報発信手段を確保していく必要がある。
	③区外へのイベント等の情報発信を強化するため、ポスター等の掲示が可能な協力先（区外の駅や施設等）を開拓する。
他区の実況	（実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区）

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	新たな情報発信ツールを開拓し、情報発信手段の拡大を図るほか、マスコミ等に対し、積極的に情報を行い、露出度を高める。	広報課へのプレス依頼や新聞その他メディアへのイベント情報等の掲載依頼を積極的に行った。	マスメディア等への情報提供を積極的に行っていくとともに、区外向けの新たな情報発信手段について検討する。
②	作成したマニュアル（素案）を元に、調整し、各部署に周知しPRに努める。	観光振興課で設置している区内駅の観光PRコーナーを他所管のイベント情報等の周知に積極的に利用してもらうことができた。	区内駅の観光PRコーナーの掲示スペースを有効活用し、様々な区の観光情報やイベント情報を発信していく。
③	オリンピック・パラリンピック開催に向け、荒川区ホームページに外国人向け観光情報サイトのページを作成する。	区外向けパンフレット「おいでよ！あらかわ」を3か国語に翻訳し、区ホームページに掲載した。	今後も外国人向けの情報発信に係る強化策について検討する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
推進	推進	区のイメージアップ及び区外からの誘客を図るため、区内外に向けた、様々な情報発信を促進していく。

況議 （要 会 質 問 状）	H24一定 日暮里駅周辺において、地元と協力して情報発信を進めるべき。
-------------------------------	-------------------------------------

事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	05-04-03	戦略プラン	●協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	荒川区観光大使PR事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	中野	担当者名	三宮
				内線	461		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-01-02	荒川区観光大使PR事業					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）		○建設事業		○それ以外の継続事業		
開始年度	○昭和 ●平成	18年度	根拠	荒川区観光大使設置要綱			
終期設定	○有 ●無	年度	法令等				
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	●計画		○非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市				
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成				
	施策	01	観光による地域活性化の推進				
目的	「荒川区観光大使」によるPR活動により区のイメージアップを図る。						
対象者等	荒川区在住又は出身者で、区に愛着を持ち、区の魅力を積極的に紹介していただける著名人 区民、区外の人々及び来訪者						
内容	（観光大使） 城戸真亜子（洋画家）、三遊亭好楽（落語家）、井崎脩五郎（競馬評論家・タレント）、片岡鶴太郎（俳優・画家）の4名⇒①区の最新情報（旬な話題、観光イベント情報、観光パンフ等）を随時提供。 ②観光大使用PR物品を作成し、それぞれの立場において機会のあるごとに荒川区をPRしてもらう（名刺、都電荒川線ポストカード、産業振興課シンボルキャラクター「わざ丸」の携帯ストラップ等）、③区長と観光大使との対談を実施し、対談内容をケーブルテレビやホームページ等で情報発信する。						
経過	平成19年度 観光大使が区の魅力を紹介する「私の大好きなまち」作成（23年度改定） 平成21年度 区長との意見交換会を実施（城戸氏、好楽氏、井崎氏が出席） 平成22年度 区長との意見交換会を実施（好楽氏、井崎氏が出席）						
必要性	著名人の協力による幅広い人脈やネットワークを活かし、区の知名度及びイメージの向上を効果的に図ることができる。						
実施方法	（1直営） （直営の場合 ●常勤 ○非常勤 ○臨時職員）						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
予算額	315	586	638	236	192	166	136	
①決算額（28年度は見込み）	85	292	353	10	91	47	136	
②人件費等	1,308	2,541	826	2,079	386	770		
③減価償却費	436	933	323	845	163	341		
【事務分担量】（%）	15	30	10	25	5	10		
合計（①+②+③）	1,829	3,766	1,502	2,934	640	1,158	136	
特定財源	国							
	都							
その他								
一般財源	1,829	3,766	1,502	2,934	640	1,158	136	
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	観光大使任命(人)	0	0	0	0	0	0	
	区長との対談(回)	1	0	0	1	1	1	
	PR活動(名刺、ストラップ等)	—	10,000	2,500	—	2,000	2,000	
あらかわの魅力伝え隊	1	0	0	0	0	0		

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
需用費	大使PR用物品購入	91	需用費	大使PR物品購入ほか	47	需用費	大使PR物品購入費ほか	118
						使用料等	大使会会場使用料	18

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 区長との対談（回）	1	1	1	1	1	
	②						
	③						

問題点・課題 (指標分析)	①観光大使に荒川区をPRしてもらうため、区の最新動向などを定期的にかつきめ細かく情報提供する必要がある。 ②区外で活動する機会を持つ区出身・在住在勤の人等に荒川区を区外でPRしてもらえるような仕組みを検討する
	他区の実況 (実施 8 区 未実施 14 区 不明 0 区) 中央区（ミス中央）3人、台東区（たいとう観光大使）22人、豊島区（ソメイヨシノ桜の観光大使）3人、大田区（大田区観光PR特使）16人、渋谷区（観光大使・台東区観光大使ナイトアンバサダー）15人・2人、北区（北区アンバサダー）5人、墨田区（すみだ親善大使）3人、葛飾区（かつしか観光大使）4人

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	引き続き観光大使への情報提供をきめ細かく行っていく。	定期的に観光大使へイベント情報等の提供を行った。	引き続き観光大使へ区の観光情報を定期的に提供していく。
②	区外で活動する機会を多くもつ小中学生等に荒川区の魅力発信をしてもらえるような仕組みづくりを検討する。	小中学生を含め荒川区の魅力発信を効果的に行ってもらえるような仕組みについて検討を開始した。	引き続き区外で活動する機会のある人に荒川区の魅力発信を行ってもらえるような仕組みづくりを検討する。
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
継続	継続	観光大使のPR力を活用し、引き続き区の魅力を発信していく。

況議 (要 会 質 問 状)	
-------------------------------	--

事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	05-04-04	戦略プラン	●協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	産業観光推進事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	中野	担当者名	中嶋
				内線	461		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-02-01	産業観光推進事業					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）			○建設事業		○それ以外の継続事業	
開始年度	○昭和 ●平成		14年度	根拠	荒川区モノづくり見学・体験スポット整備支援事業要綱		
終期設定	○有 ●無		年度	法令等			
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準			計画区分	●計画 ○非計画		
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市				
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成				
	施策	01	観光による地域活性化の推進				
目的	荒川区の産業技術や伝統工芸技術、区内で製造・販売されている優れた商品の紹介とPR、そしてモノづくり見学・体験スポットを通じて、モノづくりの街荒川のイメージアップと産業観光を推進する。						
対象者等	商品の製造、販売事業者 区民、区外の人々及び来訪者						
内容	<p>○「モノづくり見学・体験スポット整備支援事業」「モノづくり」工房やギャラリー等を一般公開する者に対し、スポットとして認定する。必要に応じ改修等の費用を補助2/3補助(100万円上限)うち、1/2は都補助あり、[19年度2件、20年度6件、21年度4件(計)12件、22年度3件(計)14件]※1件廃止あり、23年度3件(計)16件]※1件辞退あり、24年度1件計17件、25年度7件(23件)、26年度3件(26件)、27年度4件(30件)</p> <p>○観光PRコーナーの設置(おすすすめ品の販売等)・27年度実績</p> <p>①あらかわの伝統技術展、②荒川区産業展*、③あらかわモノスポ2015*、④TCK大井競馬場*、⑤つくば市産業展、⑥路面電車の日*、⑦都電荒川線の日*、⑧鉄道フェスティバル、⑨まるごとバザールin大垣*、⑩おおがき芭蕉楽市*、⑪都庁観光情報センターPRコーナー(伝統工芸、マイスターの実演)*、⑫隅田川駅貨物フェスティバル*、⑬釜石産業祭り*、⑭バラの市</p> <p>*はブランドの物販あり</p> <p>○「荒川ブランド」商品を紹介する冊子の作成・配布 ○平成27年度からモノスポツアー実施</p>						
経過	<p>○平成19年度 モノづくり見学・体験スポット整備支援事業開始</p> <p>○平成20年度</p> <p>①都電ウオークラリーは分離し、単独事業へ。②荒川ブランドセールスプロモーション事業を統合した。</p> <p>③伝統技術展は経営支援課へ移行した。</p> <p>○平成23年度 「駅からハイキング関連事業補助」経費を観光イベント助成へ組み替え</p> <p>○「荒川ブランド」を紹介する冊子の内容</p> <p>平成17年度 荒川のおすすめ品 区民が選んだおみやげ編Part1(33商品)、平成18年度 伝統工芸品、荒川マイスター製品編(伝統工芸品47商品、荒川マイスター製品17商品)(計64商品)、平成25年度 伝統工芸品、荒川マイスター製品編改訂(伝統工芸品42商品、荒川マイスター製品17商品)(計59商品) ※20年度、22年度にも改訂あり</p>						
必要性	モノづくりの街荒川の地域資源を活かし産業観光を推進することで、地域産業の活性化を促進することが期待できる。						
実施方法	(2一部委託) (直営の場合 ○常勤 ○非常勤 ○臨時職員)						

(単位：千円)

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額		8,321	5,551	5,422	5,010	4,776	5,560	6,273
①決算額(28年度は見込み)		3,324	3,328	2,683	4,393	3,706	3,016	6,273
②人件費等		7,848	8,046	9,913	6,238	10,429	7,311	
③減価償却費		2,615	2,955	3,872	2,535	4,389	3,242	
【事務分担当量】(%)		90	95	120	75	135	95	
合計(①+②+③)		13,787	14,329	16,468	13,166	18,524	13,569	6,273
特定財源	国							
	都		672	856	823			
	その他							
	一般財源		13,115	13,473	15,645	13,166	18,524	13,569
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	PR事業(回)	15	13	15	14	17	14	
	内、ブランドPRイベント(回)	10	9	11	12	14	11	
	商品紹介冊子作成(部)	25,000	-	-	25,000	-	-	
	モノづくり見学体験スポット	3	3	1	7	3	4	

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	観光振興イベント出店者報償費ほか	90	報償費	観光振興イベント出店者報償費ほか	61	報償費	観光振興イベント出店者報償費ほか	108
旅費	釜石市	52	旅費	観光振興イベント出展旅費（釜石市）	108	旅費	観光振興イベント出展旅費（釜石市）	118
需用費	荒川ブランドPR用消耗品	24	需用費	荒川ブランドPR用消耗品	364	需用費	荒川ブランドPR用消耗品	65
委託料	イベントPR設営等	1,805	役務費	行事保険（モノスポツアー）	1	役務費	行事保険（モノスポツアー）	3
使用料等	あらかわモノスポ2014会場使用料	375	委託料	イベント会場設営費ほか	2,132	委託料	イベント会場設営費ほか	3,623
負担金補助等	モノスポ整備補助金	1,360	使用料等	あらかわモノスポ2015会場使用料	306	使用料等	あらかわモノスポ2016会場使用料	356
			負担金補助等	モノスポ整備補助金	43	負担金補助等	モノスポ整備補助金	2,000

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度 見込み	目標値 (28年度)	
標	① イベント会場での実演・展示実施件数	14	17	14	14	15	
	② モノづくり見学・体験スポットの件数	23	26	30	32	33	数値は累計
	③ モノづくり見学・体験スポットの年間来訪者数	2602	2303	2363	2520	2600	

（問題点・課題 指標分析）	①「モノづくりスポット」の数が30カ所に増え、来訪者数、分野（客層）、当事業への関わり方など様々な面でスポットごとの差が広がっている。各スポットの特性を考慮した上で、「モノづくりスポット」全体として一層のPRを行うことが課題である。
	②スポット数が増え、新たなスポットの開拓が課題となっている。 ③外国人観光客を受け入れることができるような体制を作ることが課題である。
他区の実況	（実施 5 区 未実施 17 区 不明 0 区） 東京都産業を活かした観光ルート整備支援事業活用区 台東区（中小製造業アトリエ化支援事業）、豊島区（伝統工芸を巡る小路案内事業）、墨田区（3M運動ガイドマップ）、板橋区（産業観光整備事業）、江東区（ものづくりマップ作成）

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む 具体的な改善内容	平成27年度に実施した 改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む 具体的な改善内容
①	新規事業として、モノづくりスポットをまわるツアーやスタンプカードキャンペーンを実施する。	モノづくり見学・体験スポットへの来訪を促すことを目的とし、車で案内するツアーやスタンプカードキャンペーンを実施した。	モノづくり見学・体験スポットにおける外国人観光客の受け入れについて検討を行う。
②	前年度の反省点を生かし、さらに工夫を重ねる。	都庁PRについて、集客が見込める日程（曜日）に展示ができるよう調整を行った。	外国人観光客に対するPRを目的とし、通訳者や指さしボードなどの整備について検討を行う。
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
重点的に推進	推進	モノづくりのまち荒川を区内外に向け、広く周知するため、モノづくり見学・体験スポットの拡大とPRの充実を推進していく。

況議 （要 会 質 問 状）	H17二定 産業観光の視点で、姉妹友好都市交流をするべき。
-------------------------------	-------------------------------

事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	05-04-05	戦略プラン	●協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	観光イベント支援事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	中野	担当者名	樋口
				内線	461		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-03-01	川の手荒川まつり事業					
	01-03-02	観光イベント助成					
	01-03-03	隅田川花火大会事業費					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）			○建設事業		●それ以外の継続事業	
開始年度	●昭和 ○平成		62年度	根拠	川の手荒川祭り実行委員会実施事業補助金交付要綱、荒川区観光振興事業補助金交付要綱		
終期設定	○有 ●無		年度	法令等			
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	●計画		○非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市				
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成				
	施策	01	観光による地域活性化の推進				
目的	区民等の開催する観光事業を支援し、区民とともに観光資源を育成する。						
対象者等	区民主体の民間団体 区民、区外の人々及び来訪者						
内容	<p>1 川の手荒川まつり実行委員会補助 24年度（東尾久運動場）9,197千円、25年度（荒川遊園運動場）9,025千円、26年度（汐入公園）8,308千円、27年度（南千住野球場）9,605千円</p> <p>2 観光振興事業補助 27年度9件2,325千円（「えきからクエスト」50千円、クイズラリー50千円、秋の鳴く虫の声鑑賞会50千円、あらかわもんじゃマップWEB版50千円、富士見坂写真展16千円、にっぽり電車まつり783千円、フードフェスティバル500千円、にっぽり炭坑節まつり445千円、ハロウィン347千円）</p> <p>3 隅田川花火大会実行委員会への負担金 ・24年度50万円（オブザーバ参加）・25年度150万円（実行委負担金） ・26年度150万円（実行委負担金）・27年度150万円（実行委負担金）</p>						
経過	<p>○川の手荒川まつり 昭和62年以来、（計5回を除き）毎年4月29日（祝）に実施。17年の実行委員会において開催場所を南千住野球場、東尾久運動場、荒川遊園運動場、汐入公園で毎年開催することをルール化したが、27年度安全面、ブース確保の問題から荒川遊園を除外し、3会場で実施することを決定した。</p> <p>○平成23年度 ・「駅からハイキング関連事業補助」経費を産業観光推進事業から組み替え。 ・「シダレザクラ祭り補助金」が公園緑地課に移管。</p> <p>○駅からハイキングにおける商店街PRのための補助 多数の外客が見込めるイベント等において、下町商店街の魅力を伝え、再訪を促す取り組みとして平成20年度より実施していたが、平成25年度よりJRによる実施方法が変更となった（駅ポ：スマホのGPS機能を使った通年のまちあるきへ移行）ため、補助を廃止した。</p>						
必要性	区民・地域団体等が実施するイベントを支援することで、より多くの集客の機会を創出することが出来る。						
実施方法	（2一部委託）（直営の場合 ○常勤 ○非常勤 ○臨時職員）						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算額		12,310	10,407	12,325	14,124	14,095	15,205
①決算額（28年度は見込み）		11,218	1,775	12,076	12,802	12,901	13,903	18,280
②人件費等		11,737	9,287	7,977	10,125	7,930	3,463	
③減価償却費		4,503	4,043	3,550	4,225	3,739	1,536	
【事務分担量】（%）		155	130	110	125	115	45	
合計（①+②+③）		27,458	15,105	23,603	27,152	24,570	18,902	18,280
特定財源の推移	国							
	都							
	その他							
	一般財源		27,458	15,105	23,603	27,152	24,570	18,902
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	シダレザクラ祭り参加者（人）	10,000	—	9,200	—	9,000	6,500	9,000
	事業補助金（日暮里イベント含む）	3	6	7	3	9	9	
	川の手荒川まつり来場者（人）	60,000	—	70,000	70,000	72,000	78,000	55,000
川の手荒川まつり参加団体	146	—	140	132	137	127	127	

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報酬	隅田川花火大会非常勤報酬	3	職員手当等	時間外手当（川の手荒川まつり）	208	職員手当等	時間外手当（川の手荒川まつり）	257
職員手当等	時間外手当（川の手、花火）	492	職員手当等	時間外手当（隅田川花火大会）	357	職員手当等	時間外手当（隅田川花火大会）	411
賃金	臨時職員（川の手）	554	賃金	臨時職員（川の手荒川まつり）	546	賃金	臨時職員（川の手荒川まつり）	576
需用費	隅田川花火大会消耗品	88	需用費	隅田川花火大会用消耗品	99	需用費	隅田川花火大会用消耗品	100
委託料	隅田川花火大会廃棄物処理等	959	委託料	隅田川花火大会テント等設営費ほか	887	委託料	隅田川花火大会テント等設営費ほか	1,365
負担金補助等	川の手荒川まつり補助金、隅田川花火大会分担金	2,497	負担金補助等	隅田川花火大会分担金・観光振興補助金	2,600	負担金補助等	隅田川花火大会分担金・観光振興補助金	2,750
負担金補助等	観光振興事業補助金ほか	8,308	負担金補助等	川の手荒川まつり補助金	9,205	負担金補助等	川の手荒川まつり補助金	12,821

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度 見込み	目標値 (28年度)	
標	① 観光事業補助金申請件数	3	9	9	9	9	日暮里イベントを含む
	② 川の手荒川まつり来場者数(千人)	70	72	78	55	78	
	③						

（問題点・課題 指標分析）	①川の手荒川まつりの開催会場については、安全面や会場のキャパシティの面から、27年度に見直しを行い、今後3会場でのローテーション開催としたが、来場者数及び出店団体は増加傾向にあることから、引き続き状況を注視していく必要がある。
	②隅田川花火大会については、区内の観覧場所となる汐入地域において、実行委員会として関係機関と調整し安全対策を万全に図らねばならない。
他区の実況	（実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区）

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	まつりを円滑かつ効率的に実施するため、会場や実施方法等について見直しの検討を行う。	開催規模の拡大を受け、27年度に開催会場の見直しを行った。	28年度は開催規模や安全面・諸条件を考慮の上、会場を決定する。
②	汐入地域における観覧者の安全対策を引き続き進めるとともに、地元商店街の活性化に結び付くような取り組みを行っていく。	前年度の反省点を生かし、安全対策を第一に考え実施した。ごみ対策も職員による持ち帰りの周知を行った。	汐入地域における観覧者の安全対策を引き続き進めるとともに、地元商店街の活性化に結び付くような取組を検討する。
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
重点的に推進	推進	区民・事業者の自主的活動は、観光振興による地域の活性化を図る上で欠かせないものであることから、今後も関係団体等に対する支援を推進していく。

況 議 会 質 問 状 （ 要 旨 ）	H16一定	沿線商店街と連携した都電乗客サービスの提供と路面電車サミットの開催について
	H14三定	都電沿線の文化祭における区及び地元商店街の関わり方について
	H17二定	日暮里・舎人線の開通に合わせて、イベントを開催してはどうか。

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
			報償費	懇談会委員謝礼等	341	報償費	懇談会委員謝礼等	257
			需用費	懇談会賄いほか	32	旅費	懇談会委員旅費	18
						需用費	懇談会賄いほか	43

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 懇談会の開催(回)			3	2	1	27年度懇談会の最終報告
	② 懇談会専門部会の開催(回)				2	1	
	③ 研究会の開催(回)					1	

問題点・課題 (指標分析)	<p>平成27年度に作成された「荒川区観光振興懇談会報告書」に基づいて、地域経済の・産業の活性化、住民の地域に対する誇りの高揚、来訪者との交流による地域活性化を図り、「人が集う魅力あるまちの形成」を目指すことが確認された。</p> <p>2020年に開催予定のオリンピック・パラリンピックに向け、来訪する外国人向けの観光振興を行い、おもてなしの体制を作る必要がある。また、地域活性化の観点から区以外の組織・団体との連携を強化し、相乗効果を狙う取組が求められている。</p>
	<p>他区の実況 (実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区)</p>

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	荒川区の現状の課題やこれから目指すべき姿など、懇談会を開催し、提言を報告書としてまとめる。	今後の区の観光振興施策の方向性を明確にするため、懇談会を3回実施し、報告書としてまとめた。	27年度に実施した懇談会における提言内容の施策への反映状況について検証する。
②			
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
継続	継続	有識者や関係団体の意見より実践的・具体的に施策に反映していくため、懇談会等の提言を今後の計画づくりに活用する。

況 (要旨) 議 会 質 問 状	
------------------------------------	--

事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	05-04-07	戦略プラン	●協働 ○業務 ○財務 ○人事	
事務事業名	都電荒川線活用事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	中野
		担当者名	樋口	内線	461
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-02-02	都電荒川線活用事業			
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）		○建設事業 ●それ以外の継続事業		
開始年度	○昭和 ●平成 19年度		根拠		
終期設定	○有 ●無 年度		法令等		
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分 ●計画 ○非計画		
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市		
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成		
	施策	01	観光による地域活性化の推進		
目的	区の観光資源である都電荒川線を活用し、区外からの観光客を呼び込む。区内商店街や都電沿線区（北区、豊島区、新宿区）、東京都（交通局）と連携したイベント等の実施や、特別号の運行により、一層の知名度及びイメージの向上を図る。				
対象者等	区民、区外の人々及び来訪者				
内容	<p>【都電荒川線沿線4区地域活性化協議会事業】（平成24年度に協議会設立）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都電荒川線沿線絵画コンテスト(23、24年度) ・都電荒川線沿線スタンプラリー(25年度～) <p>平成25年実績：9月14日（土）～10月27日（日）に実施、賞品応募者数1,337人 平成26年実績：8月15日（金）～9月15日（月）に実施、賞品応募者数2,003人 平成27年実績：8月1日（土）～9月16日（水）に実施、商品応募数1,866人</p> <p>【都電特別号の運行】平成24年～ バラ号(5月)、ハロウィン号(10月)、さくら号(3～4月)、おもいで号(10月)平成26年度 【ラッピング都電の運行】平成27年度く俳句のまちPRラッピング都電(11月～) 【都電句会】 都電DE俳句(第1回：平成28年1月15日・14名参加、第2回：平成28年3月1日・14名参加)</p>				
経過	<p>平成19年度 「都電荒川線ウォークラリー」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都電荒川線をPRするとともに、沿線の魅力を多くの人に伝えるため、北区との共催により実施。 <p>平成23年度 「都電荒川線100周年記念事業」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・荒川区主催事業：都電100周年荒川区観光ツアー、都電100周年企画展（ふるさと文化館）など ・記念事業実行委員会主催事業（荒川区、北区、豊島区、新宿区及び都交通局）：都電サミット、都電荒川線沿線絵画コンテスト、花電車の運行、特設HP開設 <p>平成25年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都電荒川線沿線4区地域活性化協議会が主催し、「都電荒川線スタンプラリー」を実施 <p>平成27年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・俳句のまちあらかわを区外へ広くPRするため、都電荒川線1台に俳句のまちPRラッピングを実施 ・ラッピング都電で講師による俳句講座を行い、都電沿線の観光スポットで吟行及び句会を実施 				
必要性	区の観光資源である都電荒川線を中心としたイベント開催や話題づくりにより、区のイメージアップ・PRにとどまらず商店街の活性化に寄与するところは大きいと考える。				
実施方法	(1直営) (直営の場合 ●常勤 ○非常勤 ○臨時職員)				

(単位：千円)

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
予算額	1,205	1,935	1,413	502	193	190	160	
①決算額(28年度は見込み)	802	1,726	919	74	30	20	160	
②人件費等	3,052	5,505	4,131	1,663	3,090	1,539		
③減価償却費	1,017	2,022	1,614	676	1,300	683		
【事務分担量】(%)	35	65	50	20	40	20		
合計(①+②+③)	4,871	9,253	6,664	2,413	4,420	2,242	160	
特定財源								
国								
都								
その他								
一般財源	4,871	9,253	6,664	2,413	4,420	2,242	160	
実績の推移	事項名							
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
都電荒川線沿線ウォークラリー(参加者数)	306	1,774	1,713	—	—	—		
都電沿線絵画コンテスト(応募数)	—	658	343	—	—	—		
都電荒川線沿線スタンプラリー(参加者数)	—	—	—	1,377	2,003	1,866		

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
需用費	スタンプラリー景品ほか	27	需用費	スタンプラリー景品ほか	20	需用費	スタンプラリー景品ほか	160
使用料等	都電落語会施設使用料	2						

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 都電荒川線沿線スタンプラリー(人)	1,377	2,003	1,866	2,000	2,000	賞品応募者数
	②						
	③						

（問題点・課題分析）	① イベントの実施による都電の活用は充実してきているが、都電沿線の活性化については、沿線3区及び交通局と連携し、各駅ごとの観光スポットや乗換え駅の沿線情報を掲示し、都電沿線の利便性をアピールしていく必要がある。
	② 俳句・バラ・あらかわ遊園等沿線の魅力を都電と関連付け、「都電の走るまちあらかわ」のイメージを作り、各機関とも連携し情報を発信していく必要がある。
	③ 近年増加する外国人の来訪に向け、外国人目線でのイベントの実施やガイドブックを発信していく必要がある。
他区の実況	（実施 3 区 未実施 19 区 不明 0 区） ・ 都電荒川線沿線4区地域活性化協議会に加入

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	沿線4区連携によるスタンプラリーについて、25年度及び26年度の実施結果等を踏まえレベルアップ及び定着を図っていく。	沿線4区連携によるスタンプラリーを行い、26年度を上回ることはできなかったが、25年度を上回る結果となった。	沿線4区連携によるスタンプラリーを過去の実績を踏まえ効果的に、実施し集客を図る。
②	あらゆる機会をとらえ、新たな企画を立ち上げるなど、沿線の活性化を図る。	都電と俳句、あらかわ遊園を活用した新たなイベント「都電DE俳句」を実施した。	今までと異なる視点で、新たな企画を立ち上げ、沿線の新たな魅力を発掘する。
③	ラッピング都電を活用し、都電沿線地域の活性化を図る。	荒川区を俳句のまちとして区外にPRするために都電車両1台に、俳句のまちのPRラッピングを実施	都電を様々な形で活用していくことで、都電沿線地域の活性化を図る。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
継続	継続	沿線3区及び東京都交通局等と連携のうえ、荒川区の観光資源の一つである都電荒川線やあらかわ遊園を活用し、都電荒川線沿線地域全体の活性化を図る。

況議 （要 旨） 問 状	H18一定	観光産業振興を図るため、花電車を走らせたかどうか。
	H18四定	都電を活用し、荒川区の観光振興を図るべきである。
	H24三定	都電を活用した地域や交通局、沿線4区との連携等。

事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	05-04-08	戦略プラン	●協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	受入体制整備事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	中野	担当者名	池野
				内線	461		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-02-03	受入体制整備事業					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）			○建設事業		○それ以外の継続事業	
開始年度	○昭和 ●平成	17年度	根拠	荒川区外国人来訪者受入体制整備支援事業補助			
終期設定	○有 ●無	年度	法令等	金交付要綱等			
実施基準	○法令基準内 ●都基準内 ●区独自基準		計画区分	●計画 ○非計画			
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市				
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成				
	施策	01	観光による地域活性化の推進				
目的	観光客の多様なニーズに対応できる受入環境の整備促進のため、外国人旅行者にも配慮した外国語（英語、中国語、ハングル）標記の観光案内標識を整備するとともに、観光ボランティアガイドによる案内を充実させ、来訪者の受入体制の充実を図る。						
対象者等	区民及び観光客、区内の宿泊施設及び飲食店						
内容	<p>【観光案内標識設置事業】東京都観光案内標識設置補助金交付要綱に基づく補助事業 17年度 日暮里地区 4基設置 18年度 南千住地区 5基設置 19年度 都電川線沿線 5基設置 20年度 汐入地区 5基設置 以後、毎年度日暮里地区から順番に改訂、標識清掃の開始 22年度 三ノ輪停留場標識を都から移管</p> <p>【外国人来訪者受入体制整備支援事業】（平成20年度～） 区内の宿泊施設、飲食店を営む事業者が外国語版のホームページ、パンフレット、メニュー表、看板等を新規に作成する場合の初期経費の一部（3分の2上限20万円）を補助 （助成件数：21年度1件、22年度1件、23年度1件、24年度0件、25年度0件、26年度0件、27年度1件）</p> <p>【観光ボランティアガイド】養成講座の実施（平成18年度～）、ガイドの活動（平成18年度～） H22全10回16人登録、H23全10回8人登録、H24全8回10人登録、H25全8回10人登録、H26全8回3人、H27全8回6人。ガイド登録者数：116名（延べ人数）※現在登録者数：52名（うち休会者6名）</p>						
経過	<p>【観光案内標識設置事業】 平成17年度 事業開始（04-03-08観光案内標識設置事業から組み替え）</p> <p>【外国人来訪者受入体制整備支援事業】 平成20年度 事業開始 平成26年度 要綱を一部改正（対象事業を飲食店にも拡充する） 平成27年度 要綱を一部改正（宿泊施設・飲食店ともに対象事業を拡充する）</p> <p>【観光ボランティアガイド事業】 平成22年度 観光情報提供事業より移管</p>						
必要性	多言語の案内や標識等の整備を進めることは、特に外国人来訪客に荒川区の観光における満足度を高め、リピーターとしての来訪増加が期待出来る。						
実施方法	（2一部委託） （直営の場合 ○常勤 ○非常勤 ○臨時職員）						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算額		2,868	1,721	1,753	1,054	3,182	1,891
①決算額（28年度は見込み）		1,890	819	592	735	2,359	1,308	22,730
②人件費等		3,924	5,928	7,022	7,069	7,725	8,466	
③減価償却費		1,307	2,177	2,743	2,873	3,251	3,754	
【事務分担量】（%）		45	70	85	85	100	110	
合計（①+②+③）		7,121	8,924	10,357	10,677	13,335	13,528	22,730
特定財源の推移	国							
	都							
	その他							
	一般財源	7,121	8,924	10,357	10,677	13,335	13,528	22,730
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	観光案内標識設置	—	—	—	—	—	—	—
	観光案内標識内容更新・修正	5	5	6	5	5	—	—
	外国語版HP作成支援	1	1	0	0	2	1	—
ガイド活動	23	26	25	29	32	23	—	

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	ガイド養成講座講師謝礼	29	報償費	ガイド養成講座講師謝礼	32	報償費	ガイド養成講座講師謝礼	2,367
需用費	ガイド消耗品等	63	需用費	ガイド用消耗品	21	需用費	案内所整備用消耗品・ガイド用消耗品ほか	1,498
役務費	ボランティアガイド保険料	20	役務費	ボランティアガイド保険料ほか	22	役務費	案内所通信費・ガイド保険料ほか	298
委託料	標識更新・標識清掃委託等	2,248	委託料	多言語版HP作成・標識清掃委託ほか	1,121	委託料	案内所ブース製作・標識更新委託ほか	16,018
			負担金補助等	外国人来訪者受入整備補助金	111	使用料等	案内所賃料	1,600
						備品購入費	案内所整備用備品	549
						負担金補助等	外国人来訪者受入整備補助金	400

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度 見込み	目標値 (28年度)	
標	① 設置標識数(基)	19	19	19	19	19	数値は累計
	② 外国語版HP等作成支援(件)	5	5	6	9	7	数値は累計
	③ 観光ボランティアガイドの活動(回)	29	21	23	25	30	来訪者からの依頼に基く活動数

問題点・課題 (指標分析)	①Wi-Fiスポットの整備やデジタルサイネージの設置等旅行者の受入におけるハード面の整備が必要である。 ②多言語でのガイドが可能なボランティアガイドの育成が必要である。 ③外国人旅行者のニーズの把握や区内で宿泊施設や飲食店などを営む区内の事業者へのアンケート調査や聞き取り調査を行い、観光における実情やニーズの把握が必要である。 ④外国人来訪者受入体制整備支援事業補助金のPRを積極的に行い、事業者支援に繋げる必要がある。
	他区の実況 (実施 15 区 未実施 0 区 不明 7 区) 観光案内標識…台東区、豊島区、中央区、葛飾区、千代田区、足立区他

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む 具体的な改善内容	平成27年度に実施した 改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む 具体的な改善内容
①	他自治体のイベント等に出店し、PRを行う。また、対象事業について現況調査を行い、ニーズに応える支援体制を構築する。	前年度に補助メニューの拡充を図った外国人来訪者受入体制整備支援事業補助金を積極的にPRし、区内飲食店の支援に繋げた。	区内事業者等に対し、アンケート調査を行い、観光客の実情と事業者のニーズに即した、観光案内所を試行設置する。
②	ボランティアガイドのスキルアップを図るため、引き続き研修の充実を図る。	荒川区における居住歴が長い区民を講師として招き、講義やまちあるき研修を実施した。	他自治体における観光客の受入れに対する施策等を調査し、区の受入体制に関するメニューを充実させるための検討を行う。
③	荒川区の定番ガイドコースを作成できるよう荒川区の見どころや過去のガイド実施ルートなどまとめ、作成に向けた下準備を行う。	定番ガイドコースの作成に向け、これまでに実施したガイドによるまちあるきコースを集約した。	障がい者に配慮したまちあるきルートや四季を楽しめるルートなど多様な視点を盛り込んだまちあるきマップを作成する

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
推進	重点的に推進	観光案内所におけるサービス内容の充実や観光ボランティアガイドの養成・スキルアップを図るなど、来訪者の受入環境の整備を積極的に推進していく。

況議 (要旨) 会質 問状	H20三定 外国人観光客誘致に向け、観光案内所を日暮里駅周辺へ設置すべき。
------------------------	---------------------------------------

事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	05-04-09	戦略プラン	●協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	奥の細道千住あらかわサミット事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	中野	担当者名	大和田
							461
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）							
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）			○建設事業		○それ以外の継続事業	
開始年度	○昭和 ●平成		25年度	根拠			
終期設定	●有 ○無		26年度	法令等			
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画		●非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市				
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成				
	施策	01	観光による地域活性化の推進				
目的	奥の細道旅立ちの地である千住をPRし、観光及び地域振興を図るため、平成26年度に「第27回 奥の細道 千住あらかわサミット」及びその関連事業を実施する。						
対象者等	<ul style="list-style-type: none"> ・区民及び来街者 ・奥の細道サミット参加自治体関係者 						
内容	<p>芭蕉翁の業績を顕彰するとともに地域の活性化に結びつく活動と郷土の歴史文化の活用を互いに連携し、広く内外に展開するため、毎年、加盟団体により、サミット総会を開催している。26年度は第27回サミットを荒川区で開催する。[サミット概要]平成27年3月14日(理事会、総会、交流会)、15日(エクスカッション/区内奥の細道ゆかりのスポット及び産業展)</p> <p>[関連事業(観光振興課)]①旅立ちの日記念バスツアー(5月16日、参加22名)、②矢立初めの地・フォト俳句コンテスト(投句1,008句)、③千住まちあるきツアー(10月10、17、29日の3日間、参加各50名)、④パネルディスカッション～奥の細道 芭蕉旅立ちの謎に迫る～(11月30日、参加120名)⑤松尾芭蕉像の建立(平成27年3月建立)、⑥奥の細道千住あらかわサミット開催記念イベント：俳句宣言発表、子ども俳句相撲大会、記念講演会、フォト俳句コンテスト表彰式(平成27年3月14日、日暮里サニーホール、参加400名)、⑦奥の細道関連事業補助(補助率等1/2 上限額5万円、補助件数2件)</p> <p>[関連事業(他課)]荒川ふるさと文化館でのパネル展及び企画展、芭蕉の大橋渡り、芭蕉ランチ等</p>						
経過	<p>「奥の細道サミット」は、奥の細道紀行300年を契機として、奥の細道ゆかりの市町村等が芭蕉翁の業績をより一層顕彰することなどを目的として昭和63年に発足した。加盟団体は(平成26年6月1日現在 37団体)荒川区は平成19年度から参加しており、また、旅立ちの地・千住をより広く区内外に紹介するため、開催地として立候補し、平成24年こまつサミット総会において平成26年度の開催地として承認された。これに伴い、平成25年度は、プレイベント実行委員会を立ち上げ、サミット開催に向けた各種プレイベントを実施した。</p> <p>[プレイベントの内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記念講演会(金子兜太氏、城戸真亜子氏)、千住まちあるきツアー(平成25年10月17、30日)、パネル展 <p>[最近のサミット開催状況]</p> <p>24年度 石川県小松市(9月29、30日) 25年度 宮城県岩沼市(6月29、30日) 26年度 東京都荒川区(3月14、15日開催)、27年度 栃木県鹿沼市(5月23、24日)、28年度 大垣市予定</p>						
必要性	本サミットを荒川区で開催することで、南千住を奥の細道旅立ちの地として観光資源化していくための対外的な一層のPRと、地元の盛り上がりの双方において大きな効果が期待できる。						
実施方法	(2一部委託) (直営の場合 ○常勤 ○非常勤 ○臨時職員) 実行委員会に対する補助(5,455千円)、区直接執行分(7,693千円)						

(単位：千円)

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
予算額				4,477	13,641	0		
①決算額(28年度は見込み)				4,187	13,147	-		
②人件費等				7,901	8,884	0		
③減価償却費				3,211	3,739	0		
【事務分担量】(%)				95	115	0		
合計(①+②+③)	0	0	0	15,299	25,770	0	0	
特定財源の推移	国			0	0			
	都			1,745	4,587			
	その他			0	0			
	一般財源	0	0	0	13,554	21,183	0	0
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	サミット加入団体数	-	-	-	37	38	-	-
	関連イベント実施数(観光振興課)	-	-	-	2	6	-	-

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	地方物産展出店時出店者報償費	153						
旅費	地方物産展出店時職員旅費	339						
需用費	サミット関連消耗品購入	107						
委託料	芭蕉像説明板作成ほか	624						
工事請負費	芭蕉像設置場所整備	867						
備品購入費	芭蕉像購入	5,542						
負担金補助等	サミットイベント実行委員会補助	5,515						

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 奥の細道サミット関連イベント実施数（観光振興課）	2	6				まちあるきイベントなど
	② 関連イベント参加者数（観光振興課）	670	1699				各イベントの参加者数で算出
	③						

（問題点・課題分析）	<ul style="list-style-type: none"> ・本サミットを契機とし、南千住を奥の細道矢立初めの地として観光資源化していくためには、地域全体として松尾芭蕉・奥の細道を盛り上げ、さらには「俳句のまちあらかわ」を一層区民に広めることが求められる。 ・俳句文化の振興によるまちの魅力発信を地域の観光関係団体・文化団体や地域文化スポーツ部、教育委員会などと連携して進めていく必要がある。
	他区の実況 （実施 2 区 未実施 20 区 不明 0 区） 「奥の細道サミット」加入団体は、23区では当区のほか江東区、足立区の2区。

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	-	-	-
②			
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
休止・完了	休止・完了	奥の細道千住あらかわサミットの開催を終え、本事業での取り組みは完了した。今後は、俳句活用事業の中で「俳句のまちあらかわ」を活用した観光振興事業を実施していく。

況議 （要旨） 会質 問状	H25一定 「奥の細道旅立ちの地」という重要な地域資源を活かした観光振興を推進すべき
------------------------	--

事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	05-04-10	戦略プラン	●協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	水辺空間活用事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	中野	担当者名	樋口・三宮
				内線	461		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-02-04	水辺空間活用事業					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）		○建設事業		○それ以外の継続事業		
開始年度	○昭和 ●平成 26年度		根拠				
終期設定	○有 ●無		年度		法令等		
実施基準	□法令基準内 □都基準内 ■区独自基準		計画区分		○計画 ●非計画		
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市				
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成				
	施策	01	観光による地域活性化の推進				
目的	・ 隅田川の水辺空間を活用し、賑わいを創出するためのイベントを継続して実施することにより、区内でも数少ない広々とした水辺空間である汐入地域などの魅力を発信し、誘客を図る。 ・ 隅田川ルネサンス推進協議会への加入を契機に、引き続き東京都及び隅田川沿川の近隣区、団体等連携を図り、東京の貴重な水辺空間である隅田川の魅力発信をこれまで以上に推進していく。						
対象者等	区民、区外の人々及び来訪者						
内容	○都立汐入公園において、汐入水辺フェスタ2015を実施。(9/13) ①パフォーマンスイベント(ヘブンアーティストによるパフォーマンス)、②隅田川クルーズ(水上バスまたは屋形船)、③水辺アートイベント(汐入タワーを活用)、④観光ボランティアガイドによるまちあるき ⑤各種体験コーナー、⑥キッチンカーによる飲食の提供 ※26年度は台風接近により中止 ○隅田川ルネサンス協議会への参加 協議会：産業経済部長、防災都市づくり部長 専門委員会、行政連絡会：観光振興課長、都市計画課長 [隅田川ルネサンス協議会について] 隅田川ルネサンスは隅田川の賑わいを現代に生まれ変わらせ、新たな水と緑の都市文化を未来につなぐ取り組みとして始められ、取り組みを一層推進させ、東京都と隅田川沿川区や関係諸団体との連携を図るため、学識経験者や地元団体、行政関係者等から成る隅田川ルネサンス推進協議会が設置された。						
経過	[隅田川ルネサンス協議会] 平成23年4月 協議会の設立(中央区、台東区、墨田区、江東区及び各区の観光協会、学識経験者、東京都が参加) 平成24年度 各種イベントの後援(東京ホテル、隅田川夕日見、舟運フォーラム等) 平成25年度 ①特定テーマの選定 船上サービスの充実、あかりを活用した夜間景観のイメージアップ、飲食店の多様な展開 ②隅田川ルネサンスのロゴマークの作成 ③ホームページのリニューアル 平成26年2月 荒川区が協議会に正式参加 平成26年度 社会実験とこれまでのまとめ 汐入水辺フェスタ開催(台風接近により中止とした)(10/13) 平成27年度 汐入水辺フェスタ開催(9/13)※東京都パラリンピック体験プログラムと同時開催						
必要性	隅田川の水辺を活用したイベントを継続して実施することで、水辺の賑わいが創出され、区外からの誘客と区民の水辺のまちとしての機運の醸成につながる事が期待できる。						
実施方法	(2一部委託) (直営の場合 ○常勤 ○非常勤 ○臨時職員)						

(単位：千円)

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
予算額				-	-	588	777	2,926
①決算額(28年度は見込み)				-	-	414	663	2,926
②人件費等						1,545	1,539	
③減価償却費						650	683	
【事務分担量】(%)						20	20	
合計(①+②+③)	0	0	0	0	2,609	2,885	2,926	
特定財源								
国								
都								
その他								
一般財源	0	0	0	0	2,609	2,885	2,926	
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	汐入水辺フェスタ来場者	-	-	-	-	-	3700	

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
需用費	汐入水辺フェスタ関連消耗品購入	63	需用費	汐入水辺フェスタ関連消耗品購入	92	報償費	水辺フェスタ開催に伴う謝礼	26
委託料	汐入水辺フェスタ会場設営費ほか	351	役務費	汐入水辺フェスタ開催に伴う保険料	17	需用費	水辺フェスタ関連消耗品	300
			委託料	汐入水辺フェスタ会場設営費ほか	554	役務費	水辺フェスタ開催に伴う保険料	69
						委託料	水辺フェスタ会場設営費	2,475
						使用料等	水辺フェスタ開催に伴う都電使用料	56

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 水辺フェスタ来場者	0	0	3700	8000	8000	各会場の主催の休日イベント来場者数をもとに算出
	②						26年度は台風により中止
	③						

（問題点・課題分析）	<ul style="list-style-type: none"> 水辺空間を活用した賑わいづくりを創出するためには、庁内他課等と連携の上、魅力あるイベントを継続して実施していくとともに東京都や隅田川沿川の近隣区、関連団体との連携を図る必要がある。 複数会場における水辺フェスタの開催にあたり、今後、実施内容や出店者の棲み分けについて会場要件等を踏まえ検討する必要がある。
	<p>（実施 4 区 未実施 18 区 不明 0 区）</p> <p>23年4月に中央区、台東区、墨田区、江東区の4区が隅田川ルネサンス推進協議会へ参加</p>

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	引き続き都や他課と連携のうえ、水辺フェスタを開催し、誘客を促進していく。	東京都パラリンピック体験プログラムの同時開催等で、更にイベントを盛り上げた。	平成28年度は、都立汐入公園のほか、あらかわ遊園も会場に加え、水辺フェスタを2回開催する。
②			
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
推進	推進	更なる誘客を図るため、東京都、隅田川沿岸区、関係団体等と連携のうえ、地域資源の一つである隅田川の水辺空間を活用した取組みを推進していく。

況議 （要 旨） 問 状	
--------------------------	--

事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	05-04-11	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	俳句活用事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	中野	担当者名	大和田
							461
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-05-01	奥の細道活用事業					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）			○建設事業		○それ以外の継続事業	
開始年度	○昭和 ●平成	27年度	根拠				
終期設定	○有 ●無	年度	法令等				
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画		●非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市				
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成				
	施策	01	観光による地域活性化の推進				
目的	荒川区俳句のまち宣言に基づき、俳句のまちであることを区内外に向け広くPRすることで、誘客を促進し、地域の賑わいを創出するため、各種事業を実施する。						
対象者等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来街者及び区民、区外の人々 ・ 奥の細道サミット参加自治体 						
内容	俳句及び奥の細道に所縁の深い区として、「俳句のまちあらかわ」及び「奥の細道矢立初めの地千住あらかわ」を広く内外へPRし、区外からの誘客を促進するとともに、地域の活性化を図る。 [28年度関連事業(イベント関連)] ①旅立ちの日記念事業 千住まちあるきツアー(5月19日、募集50名、応募304名、参加45名)②芭蕉の大橋渡り(8月下旬)③都電DE俳句(12月頃) [28年度関連事業(整備関連)] ①句碑の建立(3月頃)②PR旗の設置(6月頃) [その他] ①俳句のまちあらかわPR商品開発補助金(6月頃)②俳句のまちあらかわノベルティグッズの購入(8月頃) ③奥の細道サミットin大垣(10月1日、2日)④奥の細道所縁の自治体の物産展への出展(随時)						
経過	荒川区は奥の細道矢立初めの地として、奥の細道所縁の自治体・団体が加入している「奥の細道サミット」に平成19年度から参加しており、平成27年3月には奥の細道矢立初めの地として「奥の細道千住あらかわサミット」が開催した。区ではこの奥の細道千住あらかわサミットの開催に向けて、各種関連イベントを実施し、多くの方へ「矢立初めの地千住あらかわ」をPRしてきた。 また、サミット同日には、著名な俳人が多くの句を詠み、区内各地に句碑がある俳句に所縁のある区として、これを区内外へ強く発信することを目的に平成27年3月14日に「荒川区俳句のまち宣言」が発表された。 [近年のサミット開催状況] 24年度 石川県小松市(9月29、30日) 25年度 宮城県岩沼市(6月29、30日) 26年度 東京都荒川区(3月14、15日) 27年度 栃木県鹿沼市(5月23、24日) 28年度 岐阜県大垣市(10月1、2日) 29年度 富山県高岡市(予定)						
必要性	俳句のまちあらかわ及び奥の細道矢立初めの地千住あらかわを継続的にPRしていくことで、区内への誘客及び地域の活性化の双方において大きな効果が期待できる。						
実施方法	(2一部委託) (直営の場合 ○常勤 ○非常勤 ○臨時職員)						

(単位：千円)

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
予算額						7,102	14,421	
①決算額(28年度は見込み)						4,875	14,421	
②人件費等						7,696		
③減価償却費						3,413		
【事務分担当量】(%)						100		
合計(①+②+③)	0	0	0	0	0	15,984	14,421	
特定財源								
国								
都						1,864	3,919	
その他								
一般財源	0	0	0	0	0	14,120	10,502	
実績の推移	事項名							
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
関連イベント実施数(観光振興課)	-	-	-	2(奥の細道事業費)	6(奥の細道事業費)	4	5	
奥の細道サミット加入団体数	-	-	-	-	-	38	38	

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
			報償費	サミット関連自治体への出店報償費	42	需用費	俳句関連イベント消耗品費	1,067
			旅費	サミット関連自治体への出展旅費ほか	322	役務費	ラッピング都電広告料	3,351
			需用費	俳句イベント関連消耗品費	148	委託料	俳句イベント運営委託費ほか	4,184
			役務費	俳句イベント・ラッピング都電広告料ほか	1,834	使用料等	俳句イベント衣装リース料ほか	432
			委託料	俳句イベント運営・ラッピング都電広告作成費ほか	2,229	工事請負費	句碑設置工事費	1,005
			使用料等	俳句イベント衣装リース料	299	備品購入費	句碑の購入	2,376
						負担金補助等	俳句のまちあらかわ商品開発補助金	1,250

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 俳句関連イベント数(観光振興課)			4	5	3	旅立ちの日記念事業など
	②						
	③						

問題点・課題 (指標分析)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 俳句文化及び奥の細道を活用したPRを行うためには、区内のみならず区内全域へ「俳句のまちあらかわ」及び「奥の細道矢立初めの地」を広めることが求められる。 ・ 俳句文化によるまちの魅力発信を行うためには、観光関係団体・文化団体や地域文化スポーツ部、教育委員会など関係部署と連携して進めていく必要がある。 ・ 既存の観光資源と合わせた俳句文化の区外への発信手段を検討する必要がある。
	他区の実況 （実施 2 区 未実施 20 区 不明 0 区） 「奥の細道サミット」加入団体は、23区では当区のほか、江東区、足立区の2区。

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	関係団体と連携し、俳句関連イベントを実施していくとともに誘客のための新たな設備等の充実を図っていく。	都電荒川線の車体に俳句のまちあらかわをPRするラッピングを施した「ラッピング都電」を運行させた。	俳句のまちあらかわとして、目に見えるシンボルの作成など、俳句を活用した観光資源の充実に取り組む。
②	既存観光資源である都電の活用や、地元商店街などと協力し、区外への魅力発信を図る。	都電車内で俳句講座を行い、あらかわ遊園など沿線の観光スポットを吟行する「都電DE俳句」を2回実施した。	俳句を活用した地域活性化を図るため、地元商店街等と連携し関連事業を実施していく。
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
推進	重点的に推進	区外からの誘客を促進し、地域の活性化を図るため、「俳句のまちあらかわ」及び「奥の細道矢立初めの地あらかわ」を活用した観光振興事業を積極的に推進していく。

況議 (要 会 質 問 状)	H25一定 「奥の細道旅立ちの地」という重要な地域資源を活かした観光振興を推進すべき
-------------------------------	--

事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	05-04-12	戦略プラン	●協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	あらかわの伝統野菜PR事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	中野	担当者名	三宮
				内線	461		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-01-03	あらかわの伝統野菜PR事業					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）			○建設事業		○それ以外の継続事業	
開始年度	○昭和 ●平成	24年度	根拠				
終期設定	○有 ●無	年度	法令等				
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	●計画		○非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅲ	産業革新都市				
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成				
	施策	01	観光による地域活性化の推進				
目的	地域の活性化や区民の郷土愛の向上を目指して、かつて江戸時代に荒川区で生産されていた三河島菜など荒川区の知名を冠した野菜を復活させる取り組みを行い、江戸東京野菜として区内外に広くPRを行う。						
対象者等	区内外の住民・観光客、区内協力店舗等						
内容	①都立農産高校との連携（平成24年度～） ・平成24年に園芸部にて三河島菜と汐入大根の試験栽培を開始（汐入大根は不作）。翌年より授業として三河島菜を栽培。栽培したものは無償提供頂き区事業で活用 ・三河島菜を「にっぽりマルシェ」にて、生徒が販売 ・これまでの三河島菜の研究成果を「にっぽりマルシェ」にてブース展示、来場者に説明（平成27年度） ②区役所内レストランさくらでの三河島菜フェアの開催（平成25年度～） ・三河島菜を使用した定食を日替わりで1週間提供						
経過	・平成18年度、荒川ふるさと文化館にて、荒川のブランド野菜をテーマにした「あらかわのお野菜 都市とお野菜」を開催。尾久宮前小学校栄養士が、江戸東京・伝統野菜研究会の大竹道茂氏に絶えてしまったとされる荒川区ゆかりの伝統野菜が現存しないか調査を依頼したところ、仙台で栽培されていた「仙台芭蕉菜」が、その子孫種であることが判明。大竹氏が小平市の農家へ種を持ち込み栽培。 ・平成23年 7月 「青茎三河島菜」としてJA東京中央会によって江戸東京野菜に選定。 ・平成24年10月 都立農産高校と連携し三河島菜及び汐入大根の試験栽培を開始 ・平成25年 9月～ 授業の一環で三河島菜の栽培を開始（毎年9月頃） ・平成25年12月～ 都立農産高校の生徒が「にっぽりマルシェ」で三河島菜を販売（毎年12月） ・平成26年 1月～ 区役所内「レストランさくら」にて1週間三河島菜メニューフェアを開催（毎年1月） ・平成26年 3月～ 都立農産高校へ区から感謝状贈呈（毎年3月）						
必要性	・新たな観光資源の創出は、更なる誘客の促進に必要不可欠である。 ・荒川区独自の文化を観光資源に活用することは、区の魅力をPRするために大切である。						
実施方法	（2一部委託） （直営の場合 ○常勤 ○非常勤 ○臨時職員）						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
予算額					-	-	447	377
①決算額（28年度は見込み）					-	-	239	377
②人件費等							3,078	
③減価償却費							1,365	
【事務分担当量】（%）							40	
合計（①+②+③）	0	0	0	0	0	0	4,682	377
特定財源								
国								
都								
その他								
一般財源	0	0	0	0	0	0	4,682	377
実績の推移	事項名							
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
三河島菜フェア提供食数（合計）				482	452	718		
三河島菜販売数（セット）				173	329	200		

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
			需用費	あらかわの伝統野菜PR用消耗品	155	報償費	勉強会講師謝礼	69
			委託料	マルシェ展示用パネル設営	84	需用費	あらかわの伝統野菜PR用消耗品	231
						委託料	マルシェ展示用パネル設営	77

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 三河島菜フェア提供食数（合計）	482	452	718	700	700	レストランさくら実施（5日間合計）
	② 三河島菜販売数（セット）	173	329	200	300	300	にっぽりマルシェでの販売
	③						

（問題点・課題分析）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 荒川の伝統野菜として区民に認知され、問い合わせも増えつつあるが、食したり、直接触れる機会が少ない ・ 生産や流通ルートが確保されない
	他区の実況 （実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区）

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	引き続き「復活！ あらかわの伝統野菜」だよりを発行し、区の実情や三河島菜の情報を発信していく。	「復活！ あらかわの伝統野菜」だよりを発行し、区の実情や三河島菜に関する情報を区内外へ発信した。	「復活！ あらかわの伝統野菜」だよりで、区の実情や三河島菜に関する情報を発信するとともに、イベント等でのPR活動を行う。
②	区民による収穫体験など、三河島菜に直接触れたり食したりする機会を提供する方法について検討を開始する。		イベントでの種の配布を引き続き行うとともに、区民が三河島菜に直接触れたり食したりできる方法について検討する。
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
継続	継続	三河島菜の認知度を高め、区民の郷土愛の醸成や区の魅力向上を図るため、今後もこれまでの取組を継続していく。

況議 （要 旨） 問 状	
--------------------------	--